ＢＣＡＯ関西支部 令和２年７月度（第 148 回）地域勉強会 議事録

日時：７月１５日（水） 18:45～20:30
場所：Zoom にてのオンライン会議
司会：飯田　 書記：伊藤(高)
出席：飯田、藤村、野原、徳永、梅田、大舘、別役、寅屋敷、鷲山、田中、柳父、伊藤(聖)、
　　黒川、中島、中村、西濱、速水、三橋、松尾、松下、湯地、伊藤(高)（計 22 名）

・テーマ１：新型コロナウイルス 企業対応報告(オペレーション、困ったこと等について等)
　　18:45～19:10
講 師：竹中工務店 藤村 雅彦 氏
概 要：企業における新型コロナウイルスに対する対応事例

中国での肺炎発生に対する感染対策から対応開始。新型コロナ対策本部が設置され、国・自治体による宣言・要請に対し諸対策が発信された。これまでの事象と異なるのは、在宅勤務が採用され業務が継続したこと。作業所は、感染拡大防止対策を実施し稼働した。GW は予定通り休暇取得。対策の実施には、社内・顧客共に正確な情報共有が必要。

Q&A：
Q：時差出勤は？
A：内勤と外勤（作業所）で若干異なるが、時差出勤が適用された。
Q：濃厚接触者は？
A：職場内と家庭内で定義されている。
Q：作業所稼働について、顧客・サプライチェーンとの連携は?
A：顧客とは感染拡大防止対策について、サプライチェーンとは調達関連について、コミュニケーションを密に対応
Q：新型コロナの BC 対策は？
A：新型インフル対策をベースにバージョンアップで対応。社内 HP に対応サイトが開設され、国交省・経団連などの多種多用な情報も共有された。
Q：経営計画等の影響？
A：作業所が稼働したことから、直近の影響は少ない状況。ただし、市場変動により中期的に影響が出る可能性がある。

・テーマ２：ウィズコロナ禍における複合災害対応について 19:10～20:30
講 師：人と防災未来センター 研究部 主任研究員 寅屋敷 哲也 氏

概　要：コロナの蔓延期における避難所での対応の注意点について解説いたします。
加えて寅屋敷氏より、「令和２年７月豪雨の関係で、当センターでは熊本に被災地支援を実施しており、私も 12 日まで４日間熊本に入っておりました。テーマ２では、複合災害ということで、実際の災害対応がどうだったかについても触れさせていただきたいと思います。」との追加情報有り。

複合災害：感染症蔓延期に災害が起きたらという設定：
・7 月の四日ごろから、熊本中心に災害対応支援を行う。
・実際に現場にいたので、資料等は十分に作る時間がなかった。
・複合災害：明確な定義がない、当センター長が当該領域の研究者で、定義を作ってきた。
・複数の災害が同時期に発生。単独に起きるより大きなダメージの場合が複合災害
・地震＋水害の研究は結構ある（堤防破壊で水害等）
・南海トラフもこのような複合的な災害になる可能性あり
・異なるタイプの災害としての感染症は自然災害か？
・物理的被害を伴うものか否かで災害のタイプを分けた
・連滝災害：トリガーとなる災害が発生した後に規模小さな災害が連続し発生

・コロナ禍における自然災害に対応するチェックリスト・ガイドラインを３つ紹介
人と防災未来センターの自治体で活用してもらう避難所のチェックリスト：
避難所（三密は NG、高松市職員陽性など事前準備で対策を取る）
衛生用品・担当職員が中心になって対応
危機管理担当でない職員が現場に出るので、事前説明必要（リスク対応含め）
担当職員等がインフェクトした場合の対応：保健所との事前役割分担
一般の方は感染リスク、衛生用品を事前に用意（個々）
避難所の密は発生する：２mスペース確保が基本
避難所で発生した場合の対応をあらかじめ用意
体長不良の方への対応
長期の場合の対応も準備
手洗い場・足淡い場は GOOD
食事の場所は分けて、衛生確保
物資の配給もディスタンス
パーテーションも段ボールではふけないので、しっかりしたものを用意
ごみの処理も、業者との連携を密に対応
避難所退去の際も消毒

内閣府ガイドライン：
発熱ゾーン等レイアウトを分けて設置
パーテーションはかなり高さが必要と現場からの情報（熊本）
運営スタッフのルールの明確化
受付は二段階（①体温チェック、②避難所の受付）
マスク・避難所名簿・災害対策本部への連絡
消毒の範囲・密にならない工夫等
トイレ・浴室の対策、ごみの分別（普通ゴミと感染疑いゴミの区別）
換気対策・車中泊者ケアー・リスク軽減（ホテル利用等・コロナ禍の特色）

２次避難先の拡充

被災地支援に行く際のガイドライン（JVOAD）：
ボランティア保険・新型コロナは対象外だが５月１日から保険適用になったが、要確認
三密回避
熊本・県内ボランティアのみ　現場の意向を尊重
外部支援も遠隔が可能出れば遠隔対応
ルール決めを共有
帰った後 14 日間の自宅待機と言いながらも、なかなかそうはいかないケース有

令和２年７月豪雨の被災地支援：
当センターでは、熊本県庁ベースに被災市町に情報収集、福岡にも回った
八代・芦北・等情報収集
災害対応とコロナ対策：
避難所運営とコロナ対策はうまくいっていた：保健所が TOP 指導
避難所に来る応援職員が陽性といった、自分のところのベースがまちまち：
装備品は充実させているが、緊急事態宣言が出ている場合は現場にはいかない等、今後の決め事の明確化
応援本部・県庁内部：会議では３密だった
避難所の体育館：非接触型の検温器、カメラでの非接触型対応検査等２段階受付
高松市職員の感染：濃厚接触者全員陰性だった

応援職員の会議体＝NG　密対策がメディア含め NG だった
熊本地震の経験から、各種現場運営も含めスムースに思った
災害対応経験者の応援もあり、個別業務ごとの支援が充実している
企業被害：芦北町等被害あり

BCP と感染症対策：
クラスター含め感染者発生で事業に影響あり
密：通常のパターンとは大分違う

遠方からの応援者が感染している事への対応

感染症対策と自然災害：
－面：観光業等、資金繰りにダイレクトに影響
＋面：コロナでオンライン化が進んでいた事、必ずしも現地に行く必要がない

・被災地支援に入る時のガイドライン

Q&A：
Q：避難所運営は○という事だが、保健所の指導がどのように伝わったポイントは？
A：おそらくコロナ禍での避難所対応のガイドラインにそって対応
Q：下水道を調べると感染状況が分かるという話？　生水のんだら NG なの？問題になっているか？
A：県の会議では、そのような話題はわからない。
A：基本的には大阪、阪神間はオゾン処理しているので問題ないとの認識
A：貯水等の衛生管理等がホームページに載っているので参考まで

詳細情報：先程のご質問について、大阪市の HP を紹介します。
https://www.city.osaka.lg.jp/suido/page/0000501081.html
心配なのは、受水槽、貯水槽がしばらく使用されていない場合の衛生管理です。
https://www.city.osaka.lg.jp/suido/page/0000502179.html

Q：コロナの意識の低い方がいると、スーパースプレッダーになるが、現場で感じた事は？

A：会議で NO マスクもいるし、密だし、結構混んでいる。PPE は結構豊富だが、全員同じルールでの運営は難しいと感じた。

Q：避難所開設したけど誰も来ない？　感染リスク回避の為、避難所に行かない？

A：初期避難はわからないが、被害が起きてからは、親戚の家やその他近所の人へ避難が多くあったようだ（地方・田舎）。都会は別かと思う。

Q：自治体のハードはそろっていると思っていいか？

A：自治体ごとに結構違うと思う。

Q：自治体によっては結構ハードがそろっていると理解しているが？

A：県サポートもあったし、避難所でホテルや旅館の利用があった

Q：今回行かれたところはかなり、H&S ともに充実しているところなのでは？

A：いった避難所は 250 名ほど避難していて、サポート体制は充実していた。

以上